

家族を描き続けてきた是枝裕和監督が、 “家族を超えた絆”を描く衝撃の感動作



「10年くらい自分なりに
考えて来たことを
全部この作品に込めようと、
そんな覚悟で臨みました」

是枝裕和

『三度目の殺人』が日本アカデミー賞最優秀賞最多
6冠という快挙を成し遂げ、その興奮も冷めやらぬ
うちに、心揺さぶる最新作を完成させた。

今度の主役は、犯罪でしかつなげなかった家族。
日々万引きを重ねる父をリリー・フランキー、その
妻を安藤サクラ、彼女の妹を松岡茉優、祖母を樹木
希林。さらに、池松壮亮、高良健吾、池脇千鶴、柄本
明、緒形直人と、実力俳優たちが集まった。

生計を立てるため、家族ぐるみで軽犯罪を重ねてい
くうちに、一層強く結ばれる一家。だがそれは、許
されない絆だった。人と人との関係が希薄な今の時
代に、「誰も知らない」「そして父になる」など様々
な家族の形を真摯に見つめ続けてきた是枝監督だか
らこそ描ける、真の“つながり”とは何か、を問う衝
撃の感動作が誕生した。

STORY

高層マンションの谷間にポツンと取り残された今に
も壊れそうな平屋に、治と信代の夫婦、息子の祥太、
信代の妹の亜紀の4人が賑がり込んで暮らしてい
る。彼らの目当ては、この家の持ち主である初枝の
年金だ。足りない生活品は、万引きで賄っていた。
社会という海の底を這うような家族だが、なぜかい
つも笑いが絶えず、互いに口は悪いが仲よく暮らし
ていた。

冬のある日、近隣の団地の廊下で震えていた幼い女
の子を見かねた治が家に連れ帰る。体中傷だらけ
の彼女の境遇を思いやり、信代は娘として育てるこ
とにする。だが、ある事件をきっかけに家族はバラ
バラに引き裂かれ、それぞれが抱える秘密と切なる
願いが次々と明らかになっていく――。

